

かかりつけエンジニア（学校安全） と子どもの安全

～子どもは小さな大人ではない～

東京六稜倶楽部

2026年2月18日

子どもの安全研究グループ

瀬戸 馨（85期）

1. はじめに

経歴

京都大学（院）土木工学修了
建設省（現国土交通省）入省

長崎工事事務所

首都国道工事事務所

大阪国道事務所 など

退職後社団法人を経て
現在は建設会社に勤務

技術士

建設部門、総合技術管理部門

日本技術士会登録 子どもの安全
研究グループに参加（2009～）

門前の小僧（10年以上）

子どもの安全の専門家

（NHK、民放、新聞・雑誌）

本日の講演内容

1. はじめに
2. 「子どもの教育」とは
3. 学校の安全
4. かかりつけエンジニア構想とは
5. 子どもの安全
6. まとめ

2. 「子どもの教育」とは

(AIに聞いてみた)

目的の一つ

自らの可能性に気づくこと

挑戦し、失敗しても立ち上がる折れない心を育てる

「学校」はそのための**安全な実験場**

クイズ1

皆さんは北野高校時代何かになろうとして
いましたか？

それは実現しましたか？

(私見) 教師の役割
「失敗するかもしれない
困難への挑戦を手助けすること」

クイズ2

背中を押してくれた恩師はいましたか？

3. 学校の安全

安全管理の鉄則

「最悪の事態を想定して、
最善の方策を選ぶ」

「楽観主義は安全の敵！」

「学校で事故はあってはならない」

理念としては全く正しい
が

ゼロリスクを安全管理の目標としてはいけない
(工学的には実現不可能)

「絶対安全（ゼロリスク）はお祈りの対象」

もし学校で事故が起きたら

謝るだけでは意味がない

事実の確認・原因究明・**再発防止**が重要

情報の公開は遅れがち

「学校の事故はコピペ事故」

学校で事故が起きる前に（事故予防）

✕「事故はあってはならない」
（絶対安全）

○「事故は起きる」からスタート
→リスクアセスメント→**予防対策**

事故の再発防止対策・予防対策

よくある対策

- ・事故がないように気をつけましょう
- ・安全に気をつけましょう

気をつけましょう ÷ 祈りましょう

「気をつけましょうでは事故はなくならない」

4. かかりつけエンジニア構想とは

「学校の施設又は設備による事故等」

消費者事故調調査報告書（2023年3月）

「学校における安全点検要領」

文部科学省（2024年3月web公表）

【提言】

緊急点検（窓からの転落、ロッカー転倒）

安全点検手法の改善（リスクアセスメント）

外部人材（専門家）の活用

学校現場では

安全点検・リスクアセスメントに
対応できる人材がない

- (案1) 専門家（技術士・労働安全衛生
コンサルタントなど）を活用
- (案2) かかりつけエンジニア構想

かかりつけエンジニア構想

かかりつけ医（学校医）のように
地域にいるエンジニア（専門家）を活用して
学校の技術的課題に対応

（メリット）

メンバーの固定により各学校の安全に
機動的、継続的に関わり続けることができる

かかりつけエンジニアの役割

(何をするのか)

モデル校での4つの提言

- ①定期点検時のエンジニアの同行
(主に老朽化点検)
- ②施設・設備や備品の整理・整頓
(メンテナンス台帳の整備)
- ③生徒への安全アンケートと安全授業
- ④老朽化以外の点検 (リスクアセスメント)

かかりつけエンジニアのメリット

- 全般 ; 児童・生徒の傷害（事故）の予防
- 子ども ; リスクを学ぶ（安全リテラシー）
→成長する
- 学校 ; 計画的なモノのメンテナンス
→教職員の負担軽減
- エンジニア ; 社会貢献（保有スキル活用）
子どもや学校のことを知る
→技術力向上

かかりつけエンジニアの課題と対応

【課題】

- (学校) 安全についての体系的な知識の不足
- (エンジニア) 学校教育の専門家ではない
子ども固有の特性についての知識・経験が不足

【対応】

- 地域にいるエンジニアが必要な知識を習得（養成講座）
- 多くの関係者（教職員・保護者・地域関係者）とともに
学校の安全を支える

5. 子どもの安全

ISOガイド50 子どもの安全の国際基本規格

「安全側面－規格及びその他の仕様書における子どもの安全の指針」
(2016 JIS化)

「子どもは小さな大人ではない」

クイズ3 (正解はありません)

1.1mの柵のあるベランダ(建基法)から、
身長1.7mの大人は普通転落しないのに、
身長1mの4歳児はなぜ転落するのか？

子どもの安全は社会の責任 (ISO,WHO)

日本では？

「子どもの安全は親の責任」

(子どもを見ていない親が悪い⇒声を上げられない)

事実の確認・原因究明・**再発防止**が重要

「子どもの事故はコピペ事故」

親（大人）が目を離していても

子どもの事故（傷害）が起きない安全な製品・環境が重要

子どもはだれのものか（私見）

文化的背景

国際的には「子どもは社会のもの」

日本では「子どもは親（イエ）のもの」

子どもの安全だけでなく
高齢者や障がい者の福祉も
イエが担ってきた

CDR (Child Death Review)

： 予防のためのこどもの死亡検証

「子どもの事故はコピペ事故」

親が声を上げないといけないこと自体適正か

子ども家庭庁HP

子どもの死亡の情報収集

専門家による検証

予防策の提言

R2からモデル事業 ： R6で10都道府県

アメリカのCDR（AIによると）

- 1970年代：

虐待死対策として始まる

- 1990年代：

州レベルで制度化、対象が全死亡へ拡大

- 2000年代：

全国センターと共通データベースが整備

- 2010年代以降：

政策形成に活用される成熟した公衆衛生システムへ

✓ 全国データベースによる一元的分析

✓ 多職種・多機関連携の徹底

✓ 政策への反映が強い

✓ 乳児・胎児死亡も含む広い範囲

6. まとめ

1. はじめに
2. 「子どもの教育」とは
3. 学校の安全
4. かかりつけエンジニア構想とは
5. 子どもの安全
6. まとめ

公益社団法人日本技術士会登録
子どもの安全研究グループ
<https://kodomonoanzen.jp/>

ご清聴ありがとうございました